



関宮学園

学校だより 43号
R8. 3. 10

校訓「敬・愛・信」

卒業おめでとうございます



3月10日(火)に卒業証書授与式を行い、9年生26名が、保護者、在校生、教職員に見送られ、関宮学園を卒業していきました。卒業生の輝かしい未来を祈念しています。9年生の保護者の皆様、長きにわたり本校教育へのご理解とご支援を賜りありがとうございました。

式辞の一部を紹介します。

二十六名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、皆さんにまず伝えたい言葉は「ありがとう」です。最上級生として、関宮学園をよく牽引してくれました。誰にも誇れる卒業生です。

先ほど、卒業証書を手渡しました。それは、本校を卒業した証しというだけでなく、一人ひとりのこれまでの頑張りを讃える賞でもあります。勉学に懸命に励んだこと、全力挨拶や全力清掃、全力合唱に取り組んだこと、運動会ではスローガンのとおり会場全体の魂を動かし頂点に到達したこと、文化祭で芸術性の高い「ライオンキング」を見事に表現したこと、生徒会活動をとおしてよりよい学校を創ろうとしたこと、

切磋琢磨して部活動をやり遂げたことなど、たくさんの榮譽がつまっています。成功したことだけではありません。結果的に失敗したけれど、目標に向かって努力したことも立派な榮譽です。それらは、自信という形に変わって、一人ひとりの心に刻まれていることでしょう。

さて、昨年のノーベル賞は、日本人二人が選ばれる快挙となりました。そのうちの一人、坂口志文さんは、体内の過剰な免疫反応を抑える細胞を発見したとして、生理学・医学賞を受賞しました。多くの研究者は、細菌やウイルスから体を守る免疫力を強める方法を探るなか、坂口さんは、逆に、免疫をいかに抑えるかをテーマに研究しました。そのため、自身の研究が誰からも認められず不遇の時期が長く続きました。普通の研究者なら、あきらめていたかもしれません。しかし、逆境に負けずに信念を貫いたことが、最高の榮譽につながりました。

皆さんも、これからの人生で、逆境の時を迎えるかもしれません。しかし、坂口さんのように、あきらめずにチャレンジし続ける人生であってほしいです。

「人生は冒険そのものである。」と言われます。皆さんは、植村直己さんを知っていますか。世界最高峰のエベレストに日本人で初めて登頂した冒険家です。エベレストを含め、世界五大陸の最高峰登頂に成功し、国民榮譽賞を受賞されました。但馬が誇る偉人です。その植村さんは、「皆それぞれが、何か新しいことをやること、それ自体が冒険なんだ。」と語っています。植村さんの言葉を借りれば、今、新たな門出を迎えた皆さんは、冒険への第一歩を踏み出そうとしているのです。

冒険には地図やコンパスが欠かせません。皆さんの地図やコンパスとして、これからの進むべき道を示してくれるのは、この9か年の義務教育で培ってきた学力や体力、友情、やさしさ、たくましさ、しなやかさなのでしょう。豊岡市にある植村直己冒険館には、「目に映るものすべてが新鮮で、好奇心に満ち溢れ、自分がやりたいことに全力で楽しむことが冒険心というものです。」と記されています。夢の実現に向けて、自分のやりたいことを楽しみ、オンリーワンの地図やコンパスを使って冒険の歩みを進めてください。

また、生徒会新聞に寄せた卒業生へのメッセージです。

はなむけに、東井義雄先生の話をご紹介します。教育者として有名な東井先生は、養父市にゆかりのある方です。八鹿小学校の校長を務められました。市内には、東井先生に教わった方が多数おられます。そのうちの一人の方に、先生はどのようなことを話されていたか尋ねたところ、「自分は自分を創る責任者」という話が記憶に残っていると答えられました。

これからは、今以上に、答えのない問いに、あなた自身の答えを出していくことが求められます。自分と対話して答えを出すこと、そして、その答えに責任をもつことです。皆さんの活躍を祈念しています。